

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K02465

研究課題名（和文）豊子愷による『源氏物語』の中国語訳 意図的改訳およびその要因について

研究課題名（英文）Chinese Translation of The Tale of Genji by Feng Zikai: Intentional Revision and its Factors

研究代表者

大野 公賀 (ONO, Kimika)

東洋大学・法学部・教授

研究者番号：20548672

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は中華民国期の代表的知識人である豊子愷が1961年8月から四年余りの年月をかけて完成させた『源氏物語』の中国語全訳に焦点をあて、その意図的な改訳および要因を明らかにしようとしたものである。当初、豊子愷の手稿調査および豊子愷の娘で翻訳協力者でもある豊一吟氏へのインタビューを通じて、豊子愷の翻訳が意図的に改訳された可能性について考察する予定であったが、コロナ禍により調査計画の変更を余儀なくされ、研究期間全体を通じて十分な成果をあげる事ができなかった。具体的な成果としては、大野公賀が論文を二本、研究ノートを二本、大学紀要に発表し、また顧サンサンが翻訳書（2024年8月出版予定）上梓した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的成果としては、以下の三点が挙げられる。（1）大野論文（2018年、2020年）において、豊子愷が『源氏物語』の翻訳に従事した1961年から65年までの期間の前後、具体的には戦時中と文革中の豊の政治的思想について明らかにした。（2）大野研究ノートでは『源氏物語』原文、豊子愷と林文月による中国語訳、彼らが参照した谷崎潤一郎と与謝野晶子の翻訳について詳細な比較を行った。（3）顧による翻訳書『源氏物語的美学世界』（2024年8月北京市・社会科学文献出版社から出版予定）は中国語圏における『源氏物語』への理解、関心を大いに高めるものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on the complete Chinese translation of "The Tale of Genji" completed by Feng Zikai, one of the leading intellectuals of the Republic of China, over a period of four years from August 1961, and attempts to clarify the intentional revision and its factors. Initially, we planned to discuss the possibility that Feng's translation was intentionally altered through research of his's manuscripts and an interview with his daughter and collaborator on the translation, Feng Yiyin. The quarantine measures forced changes in the research plan, which didn't produce sufficient results throughout the entire research period. As specific results, ONO Kimika has published two articles and two research notes in university bulletins, and GU Shanshan has published a translation (to be published in August 2024).

研究分野：中国近現代文学

キーワード：豊子愷 源氏物語 中国語訳

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 中国民国期の代表的文化人の一人である豊子愷(ほうしがい、Feng Zikai)が中国語で『源氏物語』全巻を翻訳してから既に半世紀が過ぎた。それ以降、様々な訳本が出版され、その数は現在では十数種にも及んでいる。豊子愷訳はそれら後続の翻訳に多大なる影響を与えたが、豊訳はまた中国における『源氏物語』研究にも少なからぬ影響を及ぼしたと言える。それは中国では現在も尚、『源氏物語』研究に際して原文ではなく、豊訳に基づいて行われる事が多いためである。

(2) このように中国における『源氏物語』研究において重要な位置を占める豊子愷の翻訳であるが、豊自身はこの翻訳を自らの意志で行ったのではない。『源氏物語』の中国語訳は、中国政府による世界文学翻訳という国家プロジェクトの一環として行われたが、日本語古典文学を翻訳するだけの日本語能力や日本文化の知識という点において、豊子愷は決して最も理想的な翻訳者ではなかった。豊よりも有力な翻訳候補者が数名おり、実際に翻訳作業も一部実施されたが、彼らの政治的立場や健康状況から最終的に豊子愷が選ばれたのである。つまり、豊子愷は中国政府による要請を断ることが出来ず、言わばやむなく翻訳に従事させられたのである。豊子愷が家族に宛てた私信をみると、翻訳者としての表向きの発言とは異なり、豊が実は『源氏物語』をあまり高く評価しておらず、光源氏に対しても批判的な印象をいただいていたことが明らかである。

(3) 現存する豊子愷の翻訳手稿には、豊以外の筆による三種類の修正が加えられている。この三種類の修正がそれぞれ、いつ誰によってなされたものかは不詳である。これらについて調査することで、豊子愷の翻訳に何らかの改訳が加えられたのか否か、また改訳の場合は誰のどのような意図によるのかを考察したいと考えた。

### 2. 研究の目的

(1) 上記「1. 研究開始当初の背景」(1)(2)に記載したように、豊子愷による『源氏物語』の中国語訳は現在でも中国における『源氏物語』の翻訳や研究に重要な位置を占めているが、それは豊子愷自身が意図的に行ったものではなく、国家プロジェクトとして強制的に従事させられたものであった。豊子愷は日本に留学する以前に中国で日本語の勉強をしてはいたが、日本で過ごした期間は1年に満たず、『源氏物語』を原文から翻訳するのは豊の能力をはるかに超える作業であった。そのため、豊子愷は翻訳に際して、谷崎潤一郎や与謝野晶子らの現代日本語訳や、当時日本で出版された解釈本を参照している。

(2) 豊子愷の翻訳には上記「研究開始当初の背景」(3)に記載したように、豊以外の何者かによる修正が三種類、加えられている。本研究では、現在中国で出版されている豊子愷訳、一般には公開されていない豊の手稿、豊子愷が主に参照した谷崎や与謝野の現代日本語訳、そして手稿に追記された三種類の修正を詳細に比較する事で、豊子愷の翻訳がどのように改変されたのか、またそれがどのような理由によるのかを明らかにしたいと考えた。

(3) また、それによって豊子愷の『源氏物語』や光源氏に対する評価、批判の要因について考察し、豊子愷の文学観、仏教思想についても考察する事も目的の一つであった。

### 3. 研究の方法

(1) 『源氏物語』の中国語訳に際して、豊子愷が使用した底本(金子元臣『定本源氏物語新解』明治書院、1925-30)や参考書籍(谷崎潤一郎訳、中央公論社、1939-41;与謝野晶子訳、河出書房、1957-58;

佐成謙太郎対訳本、1951-53;玉上琢弥『源氏物語の引き歌：解釈と鑑賞』中央公論社、1955)と豊記との詳細な比較を行う。また、豊子愷と並んで名訳とされる台湾の林文月訳や、読者が理解しやすいように説明を加える等の工夫が施されたアーサー・ウェイリー訳との比較も行う。豊記の完訳は林記よりも早かったが、中国国内の政治的事情により出版は林記にはるか遅れた。尚、当時の国際情勢を反映して、豊子愷と林文月はお互いの翻訳の存在を知らなかったため、豊記と林記は相互に影響を受けていない。

(2) 研究開始当初、杭州師範大学(浙江省杭州市)の弘一大師・豊子愷研究センター長であった陳星教授を訪問し、中国での豊記『源氏物語』に関する研究状況に関する意見交換をする。また当初の予定では、研究期間中に弘一大師・豊子愷研究センターと共催で国際シンポジウムを開催する予定であった。

(3) 研究開始当初、豊子愷の翻訳手稿は豊子愷記念館(浙江省桐郷市)に保管されていたが、それを詳細に調査することで、豊子愷の翻訳完了後に加えられた三種類の修正について考察する予定であった。尚、コロナ禍により渡航が難しくなった事や、翻訳手稿が豊子愷記念館とは管轄の異なる浙江省博物館に移された事から資料の閲覧調査は不可能となった。

(4) 豊子愷が『源氏物語』を翻訳していた時期も含めて、豊子愷の死去まで生活を共にし、翻訳にも協力した娘の豊一吟氏は、研究開始当初は上海在住の豊子愷研究者で、当時は健在で、記憶も正確であった。そのため、研究期間中に豊一吟氏を訪問し、翻訳状況や修正について詳細なインタビューを実施する予定であった。しかし、コロナ禍で渡航が遅れている間に豊一吟氏は体調を崩され、知覚も失われたため、この計画を遂行する事が出来なかった。

#### 4. 研究成果

(1) 論文(大野公賀「文化大革命期の中国知識人 豊子愷の思想と作品について」『東洋法学』63(2)、309-334 頁、2020 年 1 月。大野公賀「豊子愷の『戦争漫画』 その特異性と『護心』論について」『中国語中国文化』(15)、39-55 頁、2018 年 3 月)において、豊子愷が『源氏物語』の翻訳に従事した 1961 年から 65 年までの期間の前後、具体的には戦時中と文革中の豊子愷の政治的思想について考察した。

(2) 研究ノート(大野公賀「『源氏物語』第四帖「夕顔」の中国語訳について」『東洋法学』64(3)、189-210 頁、2021 年 3 月。大野公賀「『源氏物語』第四帖「夕顔」の中国語訳について(2)」『東洋法学』65(2)、59-80 頁、2021 年 12 月)において、上記「3. 研究の方法」(1)で記載した『源氏物語』原文、豊子愷による中国語訳、林文月訳、翻訳に際して彼らが参照した谷崎潤一郎訳、与謝野晶子訳等の詳細な比較検討を行った。このような現代日本語訳も含めての詳細な比較は管見の限り本研究以前には行われていないと思われる。

(3) 顧サンサンによる翻訳書『源氏物語的美学世界』(原著:Melissa McCormick, *The Tale of Genji: A Visual Companion*, Princeton University Press, 2018.11)が 2024 年 8 月に北京市・社会科学文献出版社から出版予定である。同書は一般的な読み物ではなく、研究者や『源氏物語』に関する一定以上の知識をもつ読者を対象としているが、この出版により、中国語圏における『源氏物語』への理解、関心を更に高めるものと考えられる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 大野公賀	4. 巻 65(2)
2. 論文標題 研究ノート「『源氏物語』第四帖「夕顔」の中国語訳について(2)」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『東洋法学』	6. 最初と最後の頁 59 - 80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大野公賀	4. 巻 64(3)
2. 論文標題 研究ノート「『源氏物語』第四帖「夕顔」の中国語訳について」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『東洋法学』	6. 最初と最後の頁 189 - 210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大野公賀	4. 巻 63(2)
2. 論文標題 文化大革命期の中国知識人 豊子愷の思想と作品についてー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋法学	6. 最初と最後の頁 309-334
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大野公賀	4. 巻 15
2. 論文標題 豊子愷の「戦争漫画」 - その特異性と「護心」論についてー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『中国語中国文化』	6. 最初と最後の頁 39-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 大野公賀
2. 発表標題 「大正日本における断食ブームと李叔同（弘一法師）の出家」
3. 学会等名 白山中国学会第15回研究発表大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大野公賀
2. 発表標題 “笑”的翻譯 以豐子愷 博士見鬼 為例
3. 学会等名 第12届通俗文學與雅正文学 「近現代文学與文化」國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 大野公賀（共著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東方書店	5. 総ページ数 665
3. 書名 『越境する中国文学：新たな冒険を求めて』	

1. 著者名 顧サンサン翻訳（原著者 Melissa McCormick）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 北京市・社会科学文献出版社	5. 総ページ数 -
3. 書名 『源氏物語の美学世界』（原著 The Tale of Genji : A Visual Companion）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

上記【図書】に記載した、顧サンサンによる翻訳書『源氏物語の美学世界』（原著：Melissa McCormick, The Tale of Genji : A Visual Companion, Princeton University Press, 2018.11）は2024年8月に北京市・社会科学文献出版社から出版の予定である。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	顧 サンサン  (GU Shanshan)  (90802009)	東洋大学・法学部・講師    (32663)	顧サンサンの所属研究機関、部局、職名は本研究の最終年度である2024年3月末現在のものである。2024年4月以降は別の研究機関に所属している。

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------